

# 進路指導研究部会

## I 研究テーマ

「生徒自ら人間としての生き方を考える進路指導～自己理解を深めるために～」

## II 研究テーマ設定の理由

「キャリア教育」の重要性が社会的にも求められている。中学生の時期はキャリア発達段階として「現実的探索と暫定的選択の時期」にあたり、その中で「肯定的自己理解と自己有用感の獲得」「興味・関心等に基づく勤労観、職業観の形成」「進路計画の立案と暫定的選択」「生き方や進路に関する現実的探索」を目指すものとされる（国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」から一部引用）。さらに文部科学省は、「キャリア教育は、子どもたちがそれぞれの発達段階に応じて、自己と働くこととを適切に関係付け、各発達段階における発達課題を達成できるよう取組を展開するところにその特質がある。このため、キャリア教育を進めるためには、学校教育の実情を踏まえるとともに、一人一人のキャリアが多様な側面を持ちながら段階を追って発達していくことをあらためて深く認識し、必要とされる諸能力を意図的、継続的に育成していくことが重要である」としている。

心身ともに大きく成長する時期である中学時代に、自己をしっかりと見つめ、将来にわたる生き方をしっかりと考えさせるための機会を意図的に用意することは重要なことだろう。その中で、自分とは何者なのか、自分にはどんな良い点があって、将来にわたってどんな適性を伸ばしていけばよいのかなどをよく見極めた上で、将来自分が何をしたいのか、自分には何ができるのかといった観点を少しずつ身につけさせたいと考える。現状では将来のビジョンがなかなか見えない、積極的に自己の将来像を描けない、とりあえず高校には進学したいがはっきりとした目的意識が持てないという傾向の強い現代中学生に対して、中学入学後のできるだけ早い段階から自己理解を促し、自己の将来を見渡して主体的に自らの進路を切り開いていこうとする態度を養いたいと考え、本テーマを設定した。

なお、本研究においては、生徒一人一人の自己理解を促していく一つの手段として、周囲の友達との相互交流の機会を意図的に設けることで、自己の気づかない自分に気づかせるというS G Eの手法を取り入れている。心理学の世界では、「公開された自己」（＝自分にも他人にもわかっている自分）がある一方で、「自分は気がついていないものの、他人からは見られている自己」「隠された自己」（＝自分にはわかっているが、他人にはわかっていない自己）「誰からもまだ知られていない自己」があるとされる（「ジョハリの窓」より引用）。発達段階の中で自我が芽生える時期にある中学生は、自分自身を第三者的に見られる自分と出会い、だからこそ他者との比較の中で自分自身を評価することで、「I am OK」という姿勢をなかなか持てずにいることが多い。自分一人ではなかなか見られない、あるいは見ようとならない自分自身がいるとするなら、実際に第三者からのプラスのインプットを持って、新たな自分自身を発見できるようにさせたい、そして自己開示がしっかりでき（＝自己肯定感が高まり）、主体的に自己の将来を考えられるようにさせたい・・・そう考えながら、ここ数年間の研究を行ってきた。

## III 研究の具体的経過

4月11日（木）[南 中] 研究テーマ、組織づくり

5月14日（火）[湯田小] 研究内容の決定、自己理解資料の検索

6月18日	(火)	[南 中]	今後のSGEエクササイズの検討
7月31日	(月)	[南 中]	授業案検討①
8月19日	(金)	[南 中]	授業案検討②
9月 3日	(火)	[南 中]	授業実践、研究会、Q-U結果検討
10月 1日	(火)	[南 中]	反省と今後の課題、県教研に向けて
11月 5日	(火)	[南 中]	県教研還流報告
1月21日	(火)	[南 中]	今年度のまとめ、来年度の方向性

#### IV 研究の具体的内容

「自己理解を深める進路指導」というテーマを受け、本部会では以下の2つの柱を設けて研究に取り組んできた。

- 1 SGEのエクササイズの中から「自己理解」領域のものを中心に幾つか取り上げ、各校で学活・総合の時間などを用いながら実践していく（→将来的には各校のキャリア教育の年間計画の中にも位置づけていきたい）。また、授業の反省を各校ごとに持ち寄り、反省し合うことで、より良い実践のあり方を探っていく（今年度は研究9年次）。
- 2 1学期と2学期でそれぞれ1回ずつQ-Uを実施し、事前と事後の変容を見ていく（「いごこちのよいクラスにするためのアンケート」では、事前・事後の生徒個人・学級集団全体の変容を、「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」では、事前・事後の生徒個人々の”進路意識””進路意欲”の変容を見るものとする）。

#### 3 授業展開例

- (1) 日時・場所 平成25年9月27日（金） 6校時 南西中3年4組教室
- (2) 本時のねらい
  - ・主観的なマイナスの思いこみを打ち消し、悩みを解決する力を養う。
- (3) 本時の内容

過程	学 習 活 動	留 意 点
導入 (インストラクション) 5分	<p>・ <b>本時のねらいの説明を聞く。</b></p> <p>「これから行うのは、『期末テストで思うような結果を出せなかった』とか、『実際には言っていないのに、私が悪口を言ったと友達に疑われた』などの場面を想定し、落ち込んだり、腹を立てたりせずに上手に目の前の状況に対処していく方法を考えるものです。」</p> <p>「今日は友達の見解も参考にしながら、自分自身の考え方の枠を少しでも広げられるように頑張らしましょう」</p>	<p>・あまり深入りはしないで生徒の興味を引きつける程度に留める。</p>
展開① (エクササイズ) 30分	<p>・ <b>困難な状況に出会った時の自分自身のマイナスの考え方をワークシートに記入する。【個人作業①】</b></p> <p>「ワークシートのAの部分にある事例=『期末テストで思うような結果を出せなかった』、『実際には言っていないのに、私が悪口を言ったと友達に疑われた』の2つについて、あなた自身が抱く可能性のあるマイナスの感情を考えてBの欄に記入してください」</p> <p>・ <b>困難な状況に出会った時にどのように考え方を考えてみればよいかをワークシートに記入する。【個人作業②】</b></p> <p>「困難な状況に出会った時に、自分で自分をさらに苦しめてしまうことがあります。そこで、どのように考え方を考えれば楽に状況と向き合えるようになるかを考え、ワークシートのCの欄に記入してください」</p> <p>・ <b>小グループを作ってお互いに自分の考えを発表し合う。</b></p> <p>「今度はグループを作って話し合ってもらいます。各グループごと順番に発表し合い、参考になる意見があったら自分のワ</p>	<p>・ワークシートを配布し、進め方を明確に伝える。</p> <p>・進まない生徒にはあまり深く考えこまずにやるように指示する。</p> <p>・作業中は話し合ったり相談したりしないように伝える（【個人作業①②】とも）。</p> <p>・他者の発言を冷やかしたり否定したりしないよう</p>

	<p>ークシートにメモをとってみてください。時間は10分です。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で意見を共有する。 「では、各グループの話し合いの中で出た考え方をいくつか発表してもらいます。」</li> <li>・自分自身で困難な状況を設定してみて、どう対処すればよいかを考える。 「では、自分の中で困難な状況を思い浮かべてみて、その際にどう考えていけばよいかを考え、ワークシートに記入してください。」</li> </ul>	<p>に伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進まない生徒には支援をする。</li> </ul>
<p>展開② (シェア リン グ) 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の発言を聞いて考えたことをまとめる。 「友達の発表を聞いて何か自分に気づいたことはありましたか。自分の考えがはっきりした人はいますか。友達から気づかされたこと、学んだことはありますか。今言ったことをポイントにして、話し合いを振り返っての感想をワークシートに記入してください。」</li> <li>・各グループごとに感想交流を行う。 「それでは各グループごとに感想を順番に述べ合ってください。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの過程を振り返り、友達の考えとの類似点や相違点に気づかせながら、自己をしっかりと振り返らせる。</li> <li>・時間があれば順番に全体で発表させる。</li> </ul>
<p>まとめ 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめの話を聞く。 「今日の授業の中で考えたことをもとにして、これから先の自己の進路を主体的に考えていこうようにしましょう。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の学習の見通しがつくようにしておく。</li> </ul>

## V 反省

中学3年生にとっては、自己の進路問題はよいよ現実的なものになる。夏休み中には各高校で開催される体験入学・オープンスクールなどにも生徒たちは多く参加し、自己の進路を主体的に考える機会となった。とはいえ、普段の生活の様子からは、友達関係で時にはぶつかり合って傷ついたり、各種テストの成績に一喜一憂したりする姿が多く目につく。生徒によっては、一度の失敗で簡単に心が折れてしまうタイプの生徒も少なくない。

そこで、物事の視点を少し変えてみることによってまた別の見方ができるようになる、そしてそのことによって簡単にあきらめたり落ち込んだりすることなく、新たなパワーを持って目の前の問題に立ち向かえるようになってほしい……そんなことを願いながら本時の授業を企画した。

生徒たちにとって比較的身近と思えるシチュエーションを2点用意し、自分にとってシビアな状況に陥った時に予想されるマイナスの感情と、その一方でこう考えると楽になるかもしれないというプラスの感情を考えさせた。さらに個人で考えた内容を級友と交流してすることで、自分の予想しない範囲の考え方も知ることができる……こうした学習過程を通して、生徒たちはものの見方・考え方をチェンジしてみることの必要性や、様々な見方・考え方があることに多く気づいたようである。とはいえ、生徒たちの今後の長い人生を考えてみた時、今回の授業は一つの試みにすぎない。これから本格化する受験勉強の中で、そしてその後の人生の中で、生徒一人一人が柔軟なものの見方・考え方ができ、諸問題に力強く立ち向かっていけるようになることを願ってやまない。

### 【参考文献】

- ① 國分康孝 (監) 『エンカウンターで学級が変わる (小) (中) (高) Part1～3』 (図書文化社)
- ② 明里康弘著 『どんな学級にも使えるエンカウンター20選 中学校』 (図書文化社)
- ③ 河村茂雄著 『Q-U実施・解釈ハンドブック：小・中・高校編』 (図書文化社)

